



認知症になっても幸せに暮らせる地域を目指して

高井 道子さん

特定非営利活動法人 (NPO法人) ほのぼの朝日ネットワーク理事長

オレンジカフェ開店日の目印がこの看板です。「開店日以外でも、認知症についてお悩みがありましたらお気軽にお問い合わせください」と高井さん。カフェは毎月15日・午後1時30分～3時。認知症の人と家族の会・岐阜県支部 (昭和町1・旧綿屋の清水ふとん店) ☎62-9482

県は県内で活躍する女性や子育てを応援する企業を平成26年から認定。うち、市内には21人の女性と3つの企業があります。高山で活躍する“みなさんの今”を連載で紹介します。

認知症対応型グループホーム「ほのぼの朝日の家」や飛騨地区認知症カフェ実行委員会が運営する交流会「オレンジカフェ」など、さまざまな活動に携わる高井さん。始まりは平成11年、旧朝日村で映画「郡上二揆」を上映した際、自らも携わったボランティアグループから「このまま解散するのはもったいない。この熱意と力を生かして、いつまでも楽しく暮らせる地域を目指そう」と声が上がったことからでした。

かねてから宅老所の開設やヨガによる介護予防に興味を抱いていた高井さんは、他のメンバーとともに、地域福祉のニーズを探りながら、村や生協の協力も得て平成15年、村内の古民家を改装した定員6人のグループホームを開所。村の職場づくりと福祉の拠点にもつながるこの事業は、当時の規制緩和も追い風になっていたのでこそ開所できた振り返ります。

一人としての尊敬を大切に。スタッフも利用者も「介護する人・される人」という認識を無くそう。

この思いのもと、利用者のさまざまな願いに応えながら、自立支援に向けた取り組みなどを現在でもグループホームでは続けています。

また、認知症サポーター養成講座の講師「キャラバン・メイト」を平成18年に取得した高井さんは、今までに数多くの人材を養成。育成活動にも余念がありません。

認知症の方や家族、認知症に関心がある方が交流する認知症カフェ「オレンジカフェ」も飛騨地域で初めて開設しました。「認知症の悩みを誰にも打ち明けられない方が、気軽にお茶を飲みながら集まれる場所が作りたかった」と語る高井さん。立ち上げのために、社会福祉協議会や市、医療機関などの関係団体と初会合して、その翌月にはオープンにこぎつけるネットワークの良さ。「私は考えるより行動が先に出ちゃうの」と微笑みます。

将来の夢は「認知症の方をはじめ、誰もが仲良く幸せに暮らせる地域をつくりたい」と語る高井さん。上映会の熱い思いは忘れていません。

広報 市長だより

72

地域の思いと父の意思を引き継ぐ

高山市長 國島芳明

朝日まちづくり協議会が発行される広報紙「まち協あさひ」に、秋神温泉旅館の小林徳博さんを紹介する記事が掲載されました。

徳博さんの父は氷点下の森の生みの親で、氷の王様として人々に愛された小林繁さんです。残念ながら昨年7月に亡くなられ、今後の氷点下の森を心配する声がありました。記事では長男の徳博さんが、これまでも支えてくれた地域の皆さんとともに朝日町を盛り上げ、父の意思を引き継いで今シーズンも氷の制作に取り組まれること、来月には「第43回氷点下の森氷祭り(氷の王様追悼式)」を氷の王子様として臨み、開催することを紹介していました。

御嶽山から流れる谷川から水を引き、凍てつく寒さの中、旅館の敷地に広がる森に水をまいて作り上げていく氷点下の森。当初は故・繁さん、お一人で取り組まれていた氷づくりも、いつしか地域の若者がオープン前に駐車場の草刈りを手伝ったり、沿道に雪像やキャンドルを設けて盛り上げるなど、地域ぐるみの取り組みに。今では全国的に知られる高山の冬の風物詩です。

ライトアップは1月1日から始まります。幻想的な氷の造形美に秘められた地域の皆さんの思いと、父の意思を引き継いだ徳博さんの思いを、ぜひ訪れていただき感じ取ってください。

市長室へようこそ

●市民と市長の面談日

1月26日(金)

午前9時～11時45分

※事前にご予約ください



また、始業前の時間も市役所の市長室を「市民と市長の対話の場」として開放しています。お気軽にお越しください。

●開放時間

午前7時～8時30分まで

※出張や特別な行事がある場合は除きます。
※市ホームページで市長の週間スケジュールを公開しています。

市長室直通FAXもご利用ください
FAX☎32-7000

問合せ先 秘書課 ☎35-3130

ケーブルテレビの番組「ハイ、市役所です」はインターネットでもご覧いただけます。市ホームページ「行政情報」の動画コーナー

高山市公式YouTubeチャンネル 検索